名前

／

京都府立嵯峨野高　2014年

1 次の古文を読んで、問い(1)～(7)に答えよ。

これも今は昔、白河法皇、①鳥羽殿におはしましける時、②北面の者どもに、③受領の国へ下るまねせさせて御覧あるべしとて、玄蕃頭久孝といふ者をなして、④衣冠に衣出して、その外の⑤五位どもをば前駆せさせ、⑥衛府どもをば胡籙負ひにして御覧あるべしとて、おのおの錦、唐綾を着て、a 劣らじとしけるに、左衛門尉源行遠、⑦心殊に出で立ちて、「b 人にかねて見えなば、めなれぬべし」とて、御所近かりける人の家に 1 入りゐて、従者を呼びて、「やうれ、御所の辺にて見て来」と見て参らせてけり。

無期に見えざりければ、c「いかにかうは遅きにか」と、「⑧辰の時とこそ催しはありしか、⑨さがるといふ定、⑩午未の時には渡らんずらんものを」と思ひて 2 待ちゐたるに、門の方に声して、「あはれ、⑪ゆゆしかりつるものかな、ゆゆしかりつるものかな」といへども、ただ⑫参るものをいふらんと 3 思ふ程に、「玄蕃殿の国司姿こそ、をかしかりつれ」と 4 いふ。「藤左衛門殿は錦を着給ひつ。源兵衛殿は縫物をして、⑬金の文をつけて」など語る。

あやしう覚えて、「やうれ」と 5 呼べば、この「見て来」とてやりつる男、笑みて出で来て、「大方かばかりの見物候はず。d 賀茂祭も物にても候はず。⑭院の御桟敷の方へ渡しあひ給ひたりつるさまは、目も及び候はず」といふ。「さていかに」といへば、e「早う果て候ひぬ」といふ。「こはいかに、来ては告げぬぞ」といへば、「こはいかなる事にか候ふらん。『参りて見て来』と仰せ候へば、f もたたかず、よく見て候ふぞかし」といふ。大方とかくいふばかりなし。

さる程に、「行遠は⑮進奉不参、返す返す奇怪なり。たしかに召し籠めよ」と仰せ下されて、廿日余り候ひける程に、g この次第を聞し召して、笑はせおはしましてぞ召し籠めはゆ⑯りてけるとか。

（「宇治拾遺物語」より）

（注）

① 鳥羽殿……白河法皇が現在の京都市伏見の鳥羽に造営した離宮。

② 北面の者ども……法皇の御所の北面に詰めて警備に当たる武士たちのこと。

③ 受領……実際に地方に赴任して執務した地方長官。後の「国司」は「受領」と同じ。

④ なして、衣冠に衣出して……国司に仕立てて、衣冠姿で衣の裾からわざと下着の裾を出す「出衣」の装束をさせて。

⑤ 五位どもをば前駆せさせ……位階の第五位にあたる者たちに先払いをさせて。

⑥ 衛府どもをば胡籙負ひにして……御所の警護や天皇や法皇の行列のお供をした「衛府」の役人たちに、矢を入れておくための道具である「胡籙」を背負わせて。

⑦ 心殊に出で立ちて……特に念入りに装いを凝らして。

⑧ 辰の時……午前八時頃。

⑨ さがるといふ定……遅れるとはいっても。

⑩ 午未の時……正午から午後二時頃。

⑪ ゆゆしかりつるものかな……すばらしかったなあ。

⑫ 参るもの……御所に参上する者。

⑬ 金の文……金の紋様。

⑭ 院の御桟敷の方へ渡しあひ給ひたりつるさま……白河法皇が桟敷席に渡っていかれた様子。

⑮ 進奉不参……法皇が御所からお出かけになる際にお供をしな

E1261bf558fc4

名前

かったこと。

⑯ ゆりてける……許された。

(1) 文中の傍線部a「劣らじとしける」・b「人にかねて見えなば、めなれぬべし」は文脈上どのように解釈できるか、最も適当なものを次のア～エからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えよ。

a　劣らじとしける（　）

ア　他の人が見劣りしてしまうかもしれないと思って着飾るのを遠慮した

イ　他の人に見劣りしないようにしようと思って着飾った

ウ　他の人に遅れないでおこうと思っていたのに行列に遅れてしまった

エ　他の人も遅れるに違いないと思ってゆっくりと準備をした

b　人にかねて見えなば、めなれぬべし（　）

ア　他の人には今まで見られていないが、すぐに見るようになるだろう

イ　他の人にすでに見られてしまったので、着替えた方がよいだろう

ウ　他の人には全く見られていないので、驚かすことができるだろう

エ　他の人に前もって見られてしまったら、見慣れて面白くないだろう

(2) 文中の波線部1「入りゐて」・2「待ちゐたるに」・3「思ふ」・4「いふ」・5「呼べば」の中で、**動作の主体が異なるもの**を一つ選び、記号で答えよ。（　）

(3) 文中の傍線部c「いかにかうは遅きにか」とあるが、このように思った理由を説明したものとして、最も適当なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えよ。（　）

ア　源行遠が、御所の辺りの様子を見に行かせた従者がいつまでたっても戻ってこないことを、不審に思ったから。

イ　源行遠が、辰の時には到着すると聞かされていた行列がいつまでたってもやってこないことを、不安に思ったから。

ウ　行列に参加した者が、国司姿で行列に加わっているはずの玄蕃がいつまでたっても現れないことを、不満に思ったから。

エ　行列に参加した者が、御所からやってくる行列がいつまでたっても延々と続いていることを、疑問に思ったから。

(4) 文中の傍線部d「賀茂祭も物にても候はず」とあるが、その解釈として、最も適当なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えよ。（　）

ア　京都の代表的な祭である賀茂祭もたとえようがないほどのものであります。

イ　京都の代表的な祭である賀茂祭もとりたてて言うほどのものではありません。

ウ　京都の代表的な祭である賀茂祭は本当にすばらしいものにちがいありません。

エ　京都の代表的な祭である賀茂祭は今までに見たことがないものであります。

(5) 文中の傍線部e「早う果て候ひぬ」といふとあるが、その解釈として、最も適当なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えよ。（　）

ア　従者が「玄蕃殿の着替えが終わりました」と言う。

イ　従者が「玄蕃殿がやっと戻って来ました」と言う。

ウ　従者が「行列がもう行ってしまいました」と言う。

エ　従者が「行列はまだまだ続いております」と言う。

(6) 文中の空欄 f に当てはまる語句として、最も適当なものを次のア

名 前

／

～エから一つ選び、記号で答えよ。（　　）

ア　門　　イ　膝（ひざ）　　ウ　衣（きぬ）　　エ　目

(7)　文中の傍線部g この次第とあるが、どのようなことか、**九十字以内**で説明しなさい。

名前

／

広島国際学院高　2012年

2 次の漢文・書き下し文・現代語訳を読んで、後の問いに答えなさい。

【漢文】

玉不琢、不成器。人不学、不知道。是故古之王者、建国君民、教学為先。兌命曰、「念終始典于学。」其此之謂乎。

（「学記　第十八」〈新釈漢文大系28「礼記」所収〉より）

【書き下し文】

玉琢かざれば、器と成らず。（　　）。是の故に古の王者、国を建て民に君たるには、③教学を先と為す。兌命に曰はく、「終始学に典にせんことを念ふ」と。其れ此の謂か。

【現代語訳】

玉も磨かないと、（しっかりとした）器とはならない。人間も学ばなければ、（人の歩むべき）道を理解できない。この故に昔の王者は、国をつくり民に対して（王として）君臨するために、（　　）。「兌命」という文書に書いてある、「一生を通じて学問を司ることを念頭に置くべきだ」と。④これはこのことを言ったのであろうか。

問一　――線部①「人不学、不知道」の書き下し文として、正しいものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。（　　）

ア　人不学ならば、道を知ら不
イ　人は学ばないと、道を知らない
ウ　人学ばざれば、道を知らず
エ　人の不学は、不知の道なり

問二　――線部②「故」の漢字の持つ意味として、最も適当なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。（　　）

ア　昔　イ　わざと　ウ　古い　エ　理由

問三　――線部③「教学を先と為す」の現代語訳として、最も適当なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。（　　）

ア　人民を教え学ばせることを第一に考えた
イ　教育と学問の重要性について民に訴えた
ウ　教育・学問と人々の深い結びつきに感嘆した
エ　民の教育と学問への関心を高めようとした

問四　――線部④「これ」の指し示す一文を、漢文の中から抜き出し、はじめの漢字三字を、解答欄に記入しなさい。□

問五　本文の主題を説明したものとして、最も適当なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。（　　）

ア　優秀な人材を発掘するには、人民の徳を磨くための教育と学問が、最善の方法となるはずである。
イ　玉は磨かなければ立派な器にならないのだから、王者には人格を磨いた人物がつくべきである。
ウ　玉を磨くのにかたい道具が必要であるのと同じで、人々を強制的に収容して教育を施す必要がある。
エ　昔の王者が教育を重視したことを踏まえ、統治者は教育の重要性を理解し、実践に移すべきである。

E1261bf558fc4